

〈カナダ・トロントの図書館の多文化サービス〉

トロント公共図書館にみる、 生涯学習における図書館の連携

天 野 由 貴

1. はじめに

2008年のIFLA大会は、市成立400年を迎えるカナダ、ケベック市で開催された。IFLAケベック大会に参加するにあたって、開催期間の8月10日から14日の前後トロント市に滞在し、世界的に評価の高いトロント公共図書館を見学するツアーに参加した。

このツアーは、トロント市にある国際交流基金の図書館司書、リリーフェルトまり子氏の人的ネットワークにより実現したツアーであった。特に前半2日間のツアーにおいては、参加者全員が学校図書館勤務の司書・司書教諭であったため、トロント公共図書館におけるヤングアダルトサービス、学校との連携や支援などのサービスを行っている図書館の見学を希望した。このリクエストをお願いするにあたり、参加者全員でトロント公共図書館のウェブページ¹⁾における、各館のサービス内容を閲覧した上、複数の見学候補館を決め、リリーフェルトまり子氏にメールで依頼した後、後半のむすびめの会²⁾による図書館見学ツアーの内容等と調整の上、コーディネートしてもらった。むすびめの会による図書館見学ツアーの報告は、井上靖代氏の報告³⁾があるので、あわせてお読みいただきたい。

トロント市は、上空から見下ろすと、ランド



CNタワー

マークである CN タワーと、見渡す限り山がない、平坦な都市であることが分かる。トロント市は、以前4つの都市、4地域が合併してできた都市であり、その歴史は図書館の分類にも表されている。

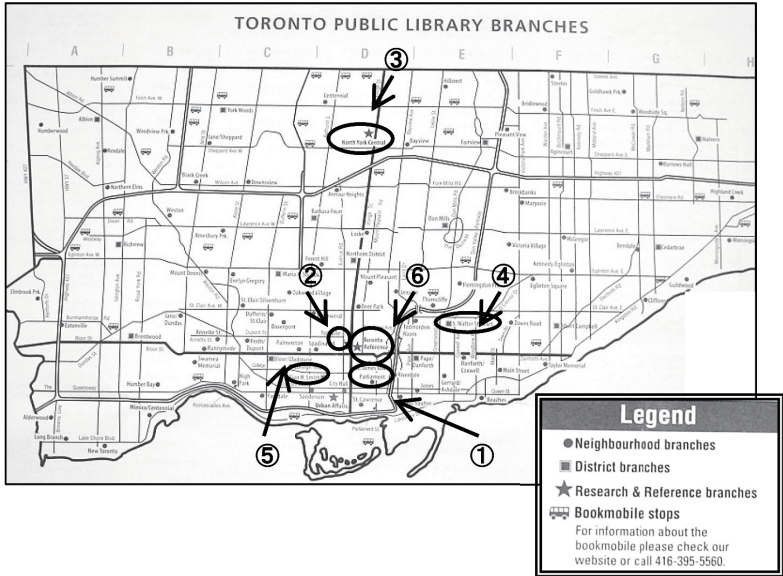
トロント公共図書館は、図書館の規模により3種類に分類され、大規模館2館、中規模館17館、小規模館80館、合わせて全99館で組織されている。3種類の図書館は、次のような名称で分類されている。大規模館は、Research & Reference Library、中規模館は、District Library、小規模館は、Neighbourhood Branch である。館数の内訳については、以下の表1のとおりである。

表1. トロント公共図書館の規模による分類内訳

*以下の表において、今回の見学ツアーで訪れた図書館については太字で示す。
囲み数字は、見学順を示す。

分類および館数	名 称	
大規模館 (Research & Reference Libraries) 2館	Toronto Reference Library ⑥ North York Central Library ③	
中規模館 (District Library) 17館	東地区	Aquincourt Albert Campbell Cedarbrae Malvern S. Walter Stewart ④
	西地区	Albion Brentwood Maria A. Shchuka Richview
	北地区	Barbara Frum Don Mills Fairview York Woods
	南地区	Bloor/Gladstone Lilian H. Smith ⑤ Northern District Pape/Danforth
小規模館 80館	St. James Town Branch ① Yorkville Branch ②	

また、99館全ての Branch を紹介するトロント公共図書館作成のパンフレット上に、今回見学した図書館を見学順に以下のように示す。



トロント公共図書館の案内パンフレットより

2. トロント公共図書館見学ツアー

今回の見学ツアーの全行程は、以下日程のそれぞれの表が示すとおりである。また、今回のツアーにおいては、通訳兼ガイドとしてリーフェルトまり子氏や日本語が堪能な現地図書館員が同行していただけるという格別の配慮があり、大変贅沢なツアー内容で構成されていた。

2008年8月9日(土)

この日は、トロント大学図書館の Sara McDowell 氏と、午後から合流した ROM (オンタリオ博物館) の司書である、Jack Howard 氏によるガイドであった。午前中は、市内南部の Union 駅近くの官公庁やビジネス街に

ある Branch（小規模館）を 2 館と、午後は地下鉄で北上し、Research & Reference Library（大規模館）2 館のうちの 1 つ、North York Central Library を見学した。ツアー内容としては、以下の表 2 に示す。

表 2. 8 月 9 日（土）ツアー内容表

時間	見学先	説明者
11 : 30a.m.	St. James Town Branch	Virginia Van Vliet, Library Service Manager
12 : 30p.m.	Yorkville Branch	
1 : 00p.m.	Lunch Break	
3 : 00 – 5 : 00p.m.	North York Central Library	Sharon Moynes, Manager, Readers, Youth & Children's Services

St. James Town Branch

この図書館で私たちの対応および説明してくれたのは、この図書館の Library Service Manager であり、長年児童およびヤングアダルトサービスに従事してきたという、Virginia Van Violet 氏であった。この図書館の基本的データは、次頁の表 3 のとおりである。



表3. St. James Town Branch 基礎データ

利用対象人口	24, 234名
開館日および開館時間	40時間/週 月：休館日 火・木：12：30p.m. - 8：30p.m. 水・金：10：00a.m. - 6：00p.m. 土：9：00a.m. - 5：00p.m.
施設規模	Wellesley Community Recreation Centre との複合施設、1階部分 面積：725m ² バリアフリー
蔵書数	59, 802冊
スタッフ数	7. 42名
蔵書内容およびコレクション	フランス語によるコレクション有 多文化対応コレクション有
閲覧関係データ (2007)	貸出冊数：241, 545冊 来館者数：197, 400名 実施プログラム：166 新規登録者数：1, 635名

この図書館は、2004年に開館した新しい図書館で、地域のコミュニケーションセンターとの複合施設の1階にあった。この図書館がある地区は、さまざまな国からの移民が増えているということもあり、かなり多文化サービスに重点が置かれた図書館であった。スタッフにおいても、多言語に対応できるよう、さまざまな言語に対応できる職員を非常勤で配置するなど、多文化社会であるカナダならではの、充実したサービス内容であった。

トロントの公共図書館は、移民として入国した後、市民になったらまず初めに行く場所だという。何故なら、生活していくために必要な書類の書き方の支援、言語教育用のキットの貸し出し、読書支援など、移民



多言語で書かれた、移民した子どもへの呼びかけポスター

でカナダにやって来た者にとって必要な、言語教育の一端、導入部分を担っているからである。また、この地区は4つの学校がある地区ということから、子ども向けの言語教育キットや読書支援などヤングアダルト向けのさまざまなサービスも充実していた。英語と共に公用語であるフランス語で書かれた、子ども用の図書の充実ぶりも納得であった。

トロント公共図書館では、現在 IC チップによる貸出システムの変更が進められており、この館では全て完了済みであると言っていた。全ての館で変更が完了すれば、図書館間の大量の貸出本処理がかなり短縮できるとのことであった。ちなみにこの図書館は、他の Branch から1日60箱のコンテナによる返却・貸出依頼があるとのこと。かなり利用が活発な図書館であった。

Yorkville Branch

次の見学先、Yorkville Branch には、先に見学した St. James Town Branch の Library Service Manager, Virginia Van Violet 氏が同行してくれた。先に訪れた St. James Town Branch から歩いていける近さなのだが、この地区の住民は、主に仕事を退いた年金生活者で、どちらかという高額所得者がリタイア後に住む地区との説明があった。

そのような地域性から、この図書館の建物は1884年開館、1907年に今の場所に移った後も、当時の外観をそのままに、歴史ある伝統的な建築様式でたたずんでおり、内部だけを現在の使用に改築もしくは増築しているとの説明であった。

図書館内部を見ると、これが100年もの歴史を持つ図書館なのかと思うぐらい、明るく落ち



重厚な概観の図書館入り口

着きがあり、ギャラリースペースをも備えた図書館であった。

表4. Yorkville Branch 基礎データ

利用対象人口	42,168名
開館日および開館時間	53時間/週 月・水・金：10：00a.m. - 6：00p.m. 火・木：10：00p.m. - 8：30p.m. 土：9：00a.m. - 5：00p.m.
施設規模	独立館 1階+地下部分 面積：842m ² バリアフリー
蔵書数	62,240冊
スタッフ数	10.46名
蔵書内容およびコレクション	フランス語によるコレクション有 多文化対応コレクション有
閲覧関係データ (2007)	貸出冊数：259,374冊 来館者数：150,063名 実施プログラム：140 新規登録者数：1,044名



図書館内部の様子

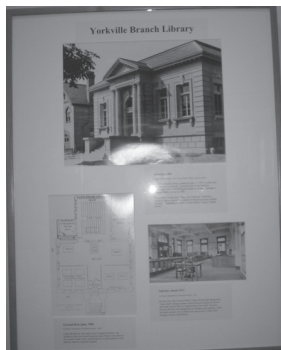


図書館100歳の誕生日を祝った、地域の子ども達からのバースデーカード

この地区には、学校が1校しかないとの説明を受けたが、館内には地域の子ども達から、図書館の100歳のお誕生日に贈られた、色とりどりのバースデー

カードが、まるで万国旗のように飾られていた。

先に見学した St. James Town Branch と規模的に見ればほぼ同じぐらいであるが、予算的には、対応するスタッフ数の多さから見ても、Yorkville Branch の方が潤沢のようだ。やはり、大学教授などの職業についていたという、知的教養レベルが高い地域住民からの、図書館への要求レベルも高いと思われ、それらが図書館の開館時館やスタッフ数など、サービスの内容に反映されたのだろう。



図書館100年の歴史を語る額



奥に見えるのが、増築されたギャラリースペース

North York Central Library

Yorkville Branch を見学した後、地下鉄に乗って Young St. を北上し、Research & Reference Library (大規模館) 2 館のうちの 1 つ、North York Central Library に向かった。ここからのガイドは、Jack Howard (ジャックさん) 氏である。

North York Central Library は、7 階建ての吹き抜けの建物で、トロント在住、日系カナダ人の建築家、レイモンド・森山氏の設計である。



7階から、吹き抜けを見下ろす

私たちに説明をしてくれた、Readers, Youth & Children's Services 担当マネージャーの Sharon Moyne 氏は、私たちが日本人ということもあり、日系カナダ人建築家のレイモンド・森山の作品は素晴らしい、私たちは彼を誇りに思っていると言ってくれたのが印象的であった。

表 5. North York Central Library 基礎データ

利用対象人口	77,946名
開館日および開館時間	59.5時間/週 + 3 ½時間 (日曜日) 月：12：30p.m. - 8：30p.m. 火-木：9：00p.m. - 8：30p.m. 金：9：00a.m. - 6：00p.m. 土：9：00a.m. - 5：00p.m. 日：1：30p.m. - 5：00p.m. (9-6月)
施設規模	独立館 7階建て 面積：15,626m ² バリアフリー、地下駐車場あり
蔵書数	542,218冊
スタッフ数	102.20名
蔵書内容およびコレクション	フランス語によるコレクション有 多文化対応コレクション有
サービス	託児室 ピアノ練習室 レンタルスペース：ホール・多目的室 (3部屋)・調理室
閲覧関係データ (2007)	貸出冊数：1,271,865冊 来館者数：1,539,493名 実施プログラム：1,470 新規登録者数：12,351名

1階には、吹き抜けを挟んで2ヶ所入り口があり、BDSゲートのある一般用の入り口と、自由に出入りできる Teen Zone が配置されていた。Teen Zone は、とても開放的なスペースで、子どもたちの作品を飾るスペースや、さまざまな参加プログラムが用意されていた。



開放的な Teen Zone. 奥はインターネット検索ラボ



上から見ると、川の流れるよう



明るい児童閲覧室

2008年は、『赤毛のアン』出版100周年、児童閲覧室にも、右のような素敵な展示スペースがあり、子どもたちは裏からこの小さな部屋の中に入ることができる。『赤毛のアン』が生まれた国に来たことを実感。



2008年8月15日（金）

この日は、リリーフェルトまり子氏によるガイドであった。この日訪れた図書館は、東地区にある District Library（中規模館）の1つであり、2008年6月にリニューアルオープンしたばかりであった。この図書館があるのは、

ギリシア人の移民が多い地域であるとのことだった。ツアー内容としては、以下の表6に示す。

表6. 8月15日（金）ツアー内容表

時間	見学先	説明者
9:00-11:00a.m.	S. Walter Stewart 児童およびヤングアダルト (Children's and Youth) サービスを中心に	Virginia Van Vliet, Past Chair, Children's Services Committee

S. Walter Stewart

この日は通訳兼ガイドのリリーフェルトまり子氏と先に見学した、St. James Town BranchのVirginia Van Violet氏が同行してくれた。ここでは、主に児童およびヤングアダルトサービスを中心に話を伺った。

この、S. Walter Stewart Branchは、2008年6月に長い改修期間を経て、リニューアルオープンしたばかりの図書館で、トロント公共図書館の中では最新のシステムが導入された図書館だった。また、特徴的な外観から、フライングソーサー（空飛ぶ円盤：UFO）と呼ばれ、地域住民に親しまれている図書館である。

貸出手続きは、ICチップが装備されているため、自動チェックイン機で利用者自身が行うことが可能であった。



S. Walter Stewartの外観



図書館の歴史を語る額



入り口からカウンターを見ると、吹き抜けの天井に細かな方角の表示がある



図書には全て IC チップが装備されているので、自動チェックイン機で貸出可能

建物が丸いため、入り口が複数あり、利用者のアクセスしやすい条件となっている。また、真ん中のカウンターからは、フロア全体が見渡せるような設計になっていて、ほぼ360度から光が入ってくる明るい図書館であった。



検索講習やインターネットを利用した自主学习が可能なスペース



1階にある児童閲覧コーナー。この図書館は、地域の学校が、クラス単位でよく利用する図書館のため、児童閲覧コーナーは、センスの良い椅子などと共に、一番明るい良い場所に設置されていた。



地下は、児童専用フロアになっているので、全体的に楽しい雰囲気のあるフロアであった。近くの学校から、ランチを持ってこのフロアにやってきて、クラスごとに食べることもあるそう。



左の写真は、日本ではあまり見かけない、スナック菓子の自動販売機。

図書館内は、基本的にスナック菓子や飲み物など、軽食の飲食が可能である。



人気の図書は、見せ方を工夫して、より多くの人が借りたくなるよう、展示されている。左右どちらからも、表紙が見られるように工夫された書架。

手軽に持ち運べるペーパーバックのコレクションも、かなり多数収集されていた。

2008年8月16日（土）

この日は、リリーフェルトまり子氏によるガイドで、むすびめの会との合同ツアーであった。

この日は、南地区にある District Library（中規模館）の1つであり、主にイギリスの絵本や児童文学において世界的に有名なオズボーン・コレクションを所蔵する Lilian H. Smith Library、トロント大学図書館の東アジア資料図書館、リリーフェルトまり子氏が勤務する日本国際交流基金図書館、Research & Reference Library（大規模館）2館の内のもう1館、Toronto Reference Library において、多文化サービスとアーサー・コナン・ドイルコレクションを見学するという、とても贅沢な内容であった。ツアー内容としては、次頁の表7に示す。

表7. 8月16日（土）ツアー内容表

時間	見学先	説明者
10：00－11：15a.m.	Lillian H. Smith Osborne Collection を中心に	Martha Scott, Librarian, Yuka Kajihara-Nolan
11：45－12：30p.m.	トロント大学図書館	Fabiano Takashi Rocha, Librarian
12：30－2：00p.m.	Lunch	
2：15－2：50p.m.	日本国際交流基金図書館 (The Japan Foundation Toronto Library)	Mariko Liliefeldt, Chief Librarian
3：00－4：00p.m.	Toronto Reference Library 多文化 (Multicultural) Services を中心に	Anna Kwan, Chair, Multicultural Service Committee Joan McCatty, Multicultural Services Specialist
4：00－5：00p.m.	Arthur Conan Doyle Collection	Paul Trumphour, Divisional Support Manager, Research and Reference

Lillian H. Smith Library

世界的な児童文学コレクションで有名なオズボーン・コレクションを持つ、Lillian H. Smith Library。最上階に、コレクションが所蔵されている。

オズボーン・コレクションについては、司書の Martha Scott 氏と日本人で司書の、Yuka Kajihara-Nolan 氏から、コレクションの中でもかなり貴重なものが選ばれ、説明があった。中でも、『不思議の国のアリス』に関するコレ



クションなど、貴重なものをたくさん見せていただいた。

また、オズボーン・コレクションは、友の会の寄付で運営されているとのこと。グッズを購入して、少しは協力できたかも。



ここも、吹き抜けの図書館

トロント大学図書館

東アジア資料図書館を、司書の Fabiano Takashi Rocha 氏の説明のもと見学した。日本の大学図書館で、日本文学の学部があれば必ず持っているであろう、よく知っている図書がたくさん所蔵されていた。

また、2008年は、源氏物語千年紀ということもあり、源氏物語関係の展示が行われていた。『あさきゆめみし』も展示されていたのには、日本のマンガの認知度が高いことを再認識した。

日本国際交流基金図書館

今回のコーディネーター、リリーフェルトまり子氏が勤務する図書館を見学させてもらった。

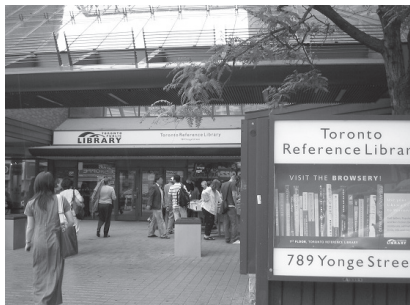
何と、この図書館の隣にはシャネルブティックという素敵な場所にあり、コンパクトにトロントに住む日本人が必要になりそうな資料が全て揃えてあった。

トロント在住の日本人には、この図書館の存在は心強いと感じた。



Toronto Reference Library

最後に Research & Reference Library (大規模館) 2館の内のもう1館、Toronto Reference Libraryを見学し、いよいよツアーは終了する。ここでは、多文化サービスについて多文化サービス委員会 (Chair, Multicultural Service Committee) 委員長の Anna Kwan 氏と



Multicultural Services Specialist の Joan McCatty 氏から説明を受けた後、最上階にあるコナン・ドイルコレクションを見学した。Toronto Reference Library の基礎データは、表8のとおりである。

表 8. Toronto Reference Library 基礎データ

利用対象人口	2, 503, 281名
開館日および開館時間	60時間/週 + 3 時間 (日曜日) 月 - 木 : 9 : 30a.m. - 8 : 30p.m. 金 : 9 : 30a.m. - 5 : 30p.m. 土 : 9 : 00a.m. - 5 : 00p.m. 日 : 1 : 30p.m. - 5 : 00p.m.
施設規模	独立館、6 階建て 面積 : 38, 691m ² バリアフリー
蔵書数	1, 760, 938冊
スタッフ数	184. 70名
蔵書内容およびコレクション	フランス語によるコレクション有 多文化対応コレクション47国語有
サービス	レンタルスペース : ホール・多目的室 (3 部屋)・調理室
閲覧関係データ (2007)	貸出冊数 : 150, 628冊 来館者数 : 1, 257, 574名 実施プログラム : 698 新規登録者数 : 10, 795名

アーサー・コナン・ドイルコレクション

コナン・ドイルファン、シャーロック・ホームズファンには堪らないコレクションである。コレクションルームは、ホームズのベーカー街のオフィスを忠実に再現した作りになっている。ホームズファン (シャーロキアン) には必見！！のコレクション。





ビル・ゲイツ氏から寄付のPCによる、インフォメーション・コモンズ



3. 児童・ヤングアダルトサービス

今回のツアーでは、施設・設備の見学だけでなく、充実した図書館サービスを実際に見るといことが、とても重要な意味を持っていた。そういった意味では、トロント公共図書館の児童・ヤングアダルトに向けた充実したサービス内容を詳しく知ることができたことは、今回の見学ツアーにおける最大の成果であった。

トロント公共図書館の Virginia Van Violet 氏が、自身で児童・ヤング

アダルト向けのサービス内容をまとめるにあたり、その種類の多さにビックリしたというくらい、多種多様なサービスが実施されていた。その中から、特徴的でユニークなサービスを報告する。

児童・ヤングアダルト向けのサービスを実施するにあたっては、委員会が組織されている。委員会は、委員長・副委員長・サービススペシャリスト・Collections Librarian (Youth, Teens)、Branch 責任者などで構成されている。また、District Library や Large neighbourhood branch には、児童図書館員が配置されている。また、2007年には、ヤングアダルト向けのコレクション収集のため、専任司書と委員会が設置された。

表9. Toronto Youth (13-19歳) 基礎データ (2008)

13-19歳人口	198, 120名
貸出者数	145, 646名
人口における貸出者数 (%)	74%
新登録者 (2007)	10, 273名
貸出冊数 (小説のみ)	901, 326冊
Teen 向け小説の所蔵冊数	275, 000冊 (これのみ2007年)
利用カード保持者	1, 672, 586枚
ヤングアダルト向きプログラム数	1, 868

Youth (13-19歳) 向けプログラム およびサービス

・YAGS – Youth Advisory Groups

32の Branch で組織された学生によるボランティアグループ。主に読むことが困難な、12歳以下の児童を支援するプログラム、Reading to



ボランティア活動への募集掲示

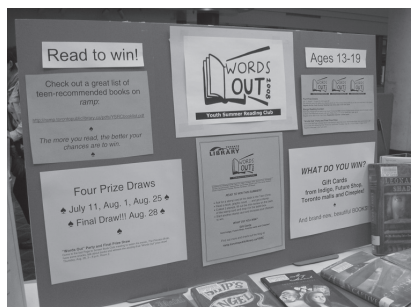
Readingに参加したり、Young Voiceという雑誌を発行するなどの、ボランティア活動を行う。

トロントでは、高校の卒業要件として、40時間のボランティア活動を課せられているので、その時間に置き換えることも可能。

2007年には、2,759名の学生がボランティアに参加した。主な活動は、Reading to Readingに990名、YAGSに1,042名。

・ Summer Reading Club

2008年に新しく実施されたプログラム。夏休みをかけて、3冊の本を読んでその書評を書き、誰が一番良い書評を書いたか、学生自身で評価をし、優秀な書評を選ぶ。優秀な作品には、賞品が用意されているとのこと。



Summer Reading Club への参加展示

いろいろな図書館で、右のような展示コーナーが見うけられた。今年の実施プログラムの中では、かなり力が入ったプログラムであることがはっきりしていた。やはりどの国も若者の読書離れという傾向があるからか。

・ Local Music Concert

学生ロックバンドによるコンサートなどが、年間2,000~3,000回、大きな図書館のホールなどを利用して実施されるとのこと。

・ TIPSS

トロント教育委員会による、停学になった学生のためのプログラム。第6学年以上で、3-5名の生徒と教師が決められたスペースの中で作業をする。1週間に3時間ほど。

・ High School Outreach

2名の司書が、市内を西地区・東地区に2分割し、それぞれの受け持ち地区の学校を訪問し、新規利用カードの登録やさまざまなプログラム、サービスを紹介するというサービス。

2007年には、137校の学校を訪問し、735クラスを周り、19,895名の生徒にサービスを紹介、3,294枚の利用カードを配布したとのこと。

実際に、このサービスを担当していた司書によると、かなりの重労働で、毎日がジブシーのようだと、笑いながら話してくれた。

Children (0-12歳) 向けプログラムおよびサービス

表10. Toronto Children (0-12歳) 基礎データ (2007)

0-12歳人口	379,030名
貸出者数	226,865名
人口における貸出者数 (%)	60%
新登録者	36,131名
貸出冊数 (児童書)	8,061,406冊
利用カード保持者	5,725,571枚
就学前児童向けプログラム数	7,612
就学児童向けプログラム数	7,028
Dial-a-Story calls (電話によるお話サービス)	316,635

・ Ready for Reading

トロント公共図書館においては、かなり重要な就学期前の子ども向けプログラムである。基本は、ALAのEvery Child Ready to Read program。両親への手引きとして、生まれてから5歳までの子どもを対象に、Vocabulary (I Know Words)、Print Motivation (I like Books)、Print Awareness (I see words)、Narrative Skills (hear Words)、Letter Knowledge (I know letters) の5つのスキルを支援する。

この他にも、知育玩具やキット、子どもが自宅から電話をして好きなお話と言語を選んで聞くという、Dial-a-Story calls など、かなり充実したプログラムである。



North York Central Library
のお話ルーム



S. Walter Stewart District Library
のお話ルーム

・ Storytime Outreach

司書がコミュニティーセンターなどに出向いて、まだ利用者ではない両親向けに、Ready for Reading プログラムについて説明し、参加を求めるサービス。10-50家族を対象に、1週間に1回45分の説明で8週間連続して行う。

・ Kindergarten Outreach

幼稚園にスタッフが出向き、利用カードの登録を促すサービス。2007年には、幼稚園児全体の88.9%がカードを持っていた。568校のうちの560校に出向き、2,690クラスを訪問した。9,240名の新規登録者を獲得した。

・ Reading to Reading

ボランティアの高校生とペアになって、話を聞いたり読むためのゲームをするなど、読書支援のためのプログラム。夏休みや冬休みに1週間に1時間の間隔で実施される。2007年の夏には、1,737名の子どもたちが参加、2006-2007の1年間で、1,076の学校が参加した。ボランティアは、271名。

・ English Can Be Fun

7月から8月にかけて、英語のスキルを中心に子どもたちを支援するプログラム。8-9 Branchのみで実施。1日3時間のプログラムで6週間実施される。

・ Summer Leading Club

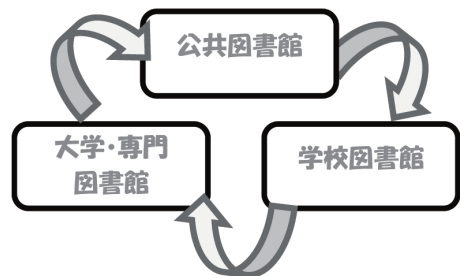
カナダ全土で行われるプログラム。トロント公共図書館が企画し、TD銀行支援の元、国立図書館とも連携して実施される。英語とフランス語、2つの公用語を支援するバイリンガルプログラム。参加した子どもにはキットが渡され、8冊本を読めば表彰され、図書館の壁に子どもの名前が刻まれる。2007年には、33,484セットのキットが配布され、1,227館のBranchが参加し、47,971名の子どもがこのプログラムに参加した。

4. 生涯学習における図書館の連携

トロント公共図書館の多様なサービスを見て、やはり図書館は公共に始まり公共に帰っていく、ということを改めて実感した。

トロント公共図書館が実施している、0歳の赤ちゃんを支援することに始まり、学校への公共図書館利用の働きかけ、休暇中に実施されるさまざまなプログラム、移民に対する教育的支援、成人向けサービス、就職・資格取得支援など、これらの積極的なサービスにより市民の70%が図書館利用カードを所持し、生涯図書館利用者であるということは、図書館として理想的な形である。

では、日本に置き換えて考えてみると、それぞれの館種の中では、さまざまなことが検討され、さまざまな取り組みがなされてはいるが、はたして館種を超えた連携、生涯学習者として十分に図書館を活用できるという点については、どうなのだろう



う。それぞれの館種の中で、利用者教育を行ってはいるが、トロントの例から見ても、公共図書館で利用者が当り前のように利用できないと、館種の違う図書館に移ってからすぐに、積極的な利用者にはなれないであろう。

生涯学習の中で、公共から出発し、積極的な利用者としてまた再び公共図書館を利用するようになるためには、館種を超えたサービスの連携について考えることが重要であろう。学校図書館を利用する生徒たちが、生涯自立した学習者として、公共図書館の積極的な利用者になるためには、常に身近な図書館を十分に利用したという経験を積み重ねる必要がある。今日の前にいる利用者が、どのように図書館を利用してきたのか、これからどのような図書館利用サービスを楽しむことができるのか、独立した生涯学習者になるための次のステップのためには、他の図書館と連携しどのようなサービスを提供し、どう発展させていくのかを、学校図書館でもよく考えなければならない。

トロント公共図書館から学んだことは、これからの学校図書館活動に、さまざまな課題を与えてくれた。館種を超えて連携し、生涯に渡ってサービスを繋いでいくことが、生徒を自立した学習者として送り出すためには重要であることも。

5. おわりに

今回の見学ツアーは、多くの方の尽力と人的ネットワークによって実現した。とくに、この企画に参加するきっかけをくれた中村百合子氏、また、私たちの細かい希望を、人的ネットワークを駆使して実現して下さったリリーフェルトまり子氏、ボランティアで通訳兼ガイドを引き受けて下さった、Sara McDowell氏とJack Howard氏、トロント公共図書館に関する膨大で、大変貴重な資料をたくさんたくさん作成・提供・説明して下さったVirginia Van Vliet氏など、まだまだ多くの方に感謝してもしきれないのだが、ここに感謝の意を表したい。本当にありがとうございました。この素晴らしい体験をこれからの図書館活動に生かしていきたいと思えます。いえ、生かしていきます！！

注

- (1) トロント公共図書館ホームページ
<http://www.torontopubliclibrary.ca/>
- (2) むすびめの会ホームページ <http://www.musubime.net/>
- (3) 井上靖代「みんなの図書館」、2008、12月号、p.43-50.

(あまの ゆき。椋山女学園高・中図書館司書)